

ざっくり解説！南部氏一族の歴史！！

■ 南部氏一族について

糠部に入部した南部氏は、郡中に分散し、それぞれの居城を構えた。現在の青森県南部町・三戸町一帯を領した三戸南部家のみは例外的に「南部」の姓を名乗り続けたが、それ以外の氏族はそれぞれが居城を構えた地名へと姓を改めた（一戸南部家＝「一戸」、七戸南部家＝「七戸」、根城南家＝「八戸」）。

第一章 糠部入部

【期間】糠部入部から安藤氏攻略まで（14世紀中頃から嘉吉2年(1442)）
【勢力域】糠部など

甲斐国南部郷（山梨県南部町一帯）を治めていた南部氏は、14世紀頃に糠部（現青森県東半から岩手県北半）に移り住むと、郡内に分散し、それぞれの城館を構えた（④七戸城・⑤根城・⑥聖寿寺館・一戸城）後に南部氏一族は分家や家臣、あるいは友好関係にある国衆と連携し（一揆）、広く北東北を治めた（③野辺地城、⑧九戸城、⑩久慈城）。また、この段階の南部氏は糠部以外の遠隔地にも複数の領地を持っていた（⑬金澤城）。

第二章 津軽侵出

【期間】十三湊安藤氏攻略から大浦氏蜂起まで（嘉吉2年～元龜2年(1571)）
【勢力域】糠部 + 津軽

15世紀中葉以降、隣部への侵攻を進めた南部氏一族を中心とする一揆は、嘉吉2年に十三湊安藤氏の居館・福島城を攻略した。以降、南部氏一族は津軽（現青森県西半）に侵出し、友好関係にあった浪岡北畠氏とともに同地を掌握した（①種里城・②浪岡城・石川城）。

南部氏一族と家臣

【三戸南部家】
姓は南部。⑥聖寿寺館、⑦三戸城、（⑧九戸城⇒）福岡城、⑩盛岡城を居城とした。盛岡南部家ともいう。後の盛岡藩主家。

※北氏

姓は北。三戸南部家の譜代家臣。後に⑬花巻城の城代を勤めた。

※大浦氏

姓は南部。久慈を出自とする三戸南部家家臣。津軽に入り①種里城を築いた。後裔は南部氏一族から独立し、後に弘前藩主家になった。

※江刺氏

姓は江刺。かつては葛西氏家臣であったが、後に三戸南部家家臣に転じた。三戸南部家の命により⑭土沢城主を勤めた。

【根城南家】

姓は八戸。⑤根城を居城とした。中世段階は独立領主格だったが、後に三戸南部家家臣に転じた。近世になると遠野に村替し、⑬鍋倉城に入った。遠野南部家ともいう。

【七戸南部家】

姓は七戸。④七戸城を居城とした。室町時代に根城南家から分立した。九戸一揆で九戸方に与し、廃絶した。

※野辺地氏

姓は野辺地。③野辺地城を居城とした。七戸南部家から分立したと考えられている。

【一戸南部家】

姓は一戸。一戸城を居城とした。南部氏一族の内紛により、天正9年に嫡家は廃絶した。

友好関係にある国衆・名族

【九戸氏】

姓は九戸。⑧九戸城を居城とした。出自には諸説ある。当初は南部氏一族と友好関係にあったが、後に三戸南部家と反目し、九戸一揆を起こす。結果この戦いに破れ嫡家は廃絶した。

※姉帯氏

姓は姉帯。⑨姉帯城を居城とした。九戸氏から分立したと考えられている。九戸一揆で九戸方に与し、廃絶した。

【久慈氏】

姓は久慈。⑩久慈城を居城とした。九戸一揆で九戸方に与し、廃絶した。

【浪岡北畠氏】

姓は北畠。②浪岡城を居城とした名族。15世紀中頃、南部氏一族の庇護を受け津軽に入った。後に大浦氏の攻撃を受け、廃絶した。

第三章 九戸一揆

【期間】大浦氏蜂起から奥羽再仕置まで（元龜2年～天正19年(1591)）
【勢力域】糠部 + 志和 など

以降隣部への侵攻を進めた南部氏一族を中心とする一揆は、天正16年に高水寺斯波氏の居城⑫高水寺城を攻略した。しかし、一揆の団結は決して強固ではなく、内紛が頻発した。これら内憂に加え、天正17年には大浦為信に津軽切り取り（独立）、翌18年には安東実季に比内奪還を許すなど、外部勢力の反抗も激化した。

この頃になると、一揆の中でも三戸南部家と九戸氏の対立が顕在化し、天正18年冬以降、郡中は三戸方（⑦三戸城・⑤根城）と九戸方（⑧九戸城・③野辺地城・④七戸城・⑨姉帯城・⑩久慈城）に分かれて争った（九戸一揆）。翌年9月、三戸方は豊臣軍の加勢を得て、九戸方の拠点である九戸城を落とした。豊臣政権の後ろ盾を得た三戸南部家は名実ともに「大名」となり、大浦氏を除く、主要な国衆を家臣化することに成功した。

第四章 盛岡藩誕生

【期間】奥羽再仕置から戊辰戦争まで（天正19年～慶應4年(1868)）
【領土】糠部 + 志和 など

大名となった三戸南部家は、居城を⑧九戸城に移し、城名を福岡城へ改めた。さらに寛永10年には南に大きく広がった領地（盛岡藩）に合わせるように居城を⑪盛岡城へと移した。中世城館の多くは廃城となったが、一部主要城館は支城や代官所（③野辺地城、④七戸城・⑦三戸城・⑧九戸城（＝福岡城）⑫高水寺城（＝郡山城）・⑬鍋倉城・⑭土沢城・⑮花巻城）に転用された。

敵対関係にある国衆・名族

【十三湊安藤氏】

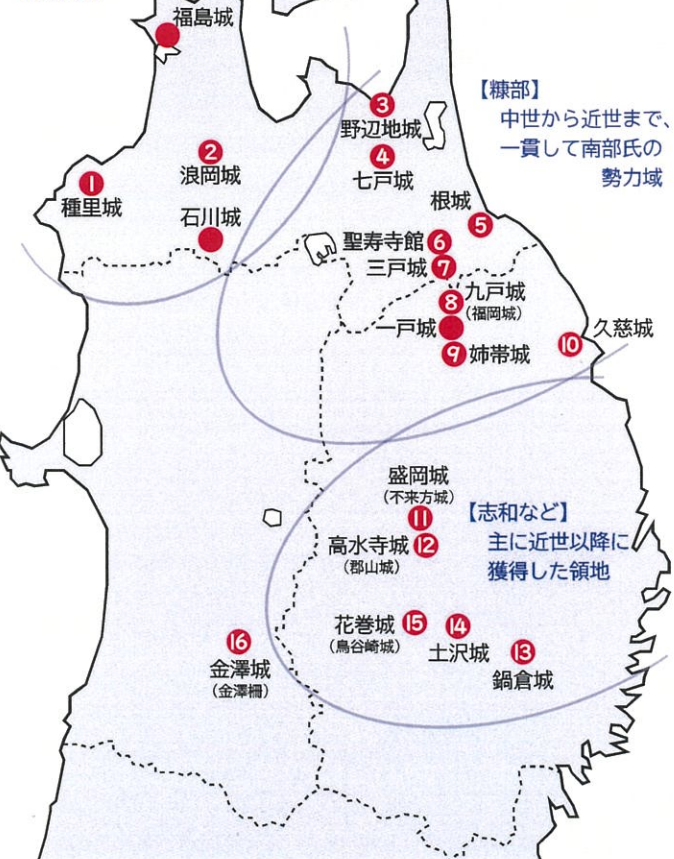
姓は安藤・安東。津軽の国衆。嘉吉2年に福島城を落とされ、蝦夷地に逃れた。

【高水寺斯波氏】

姓は斯波。志和の名族。天正16年に⑫高水寺城を落とされ、廃絶した。

【津軽】

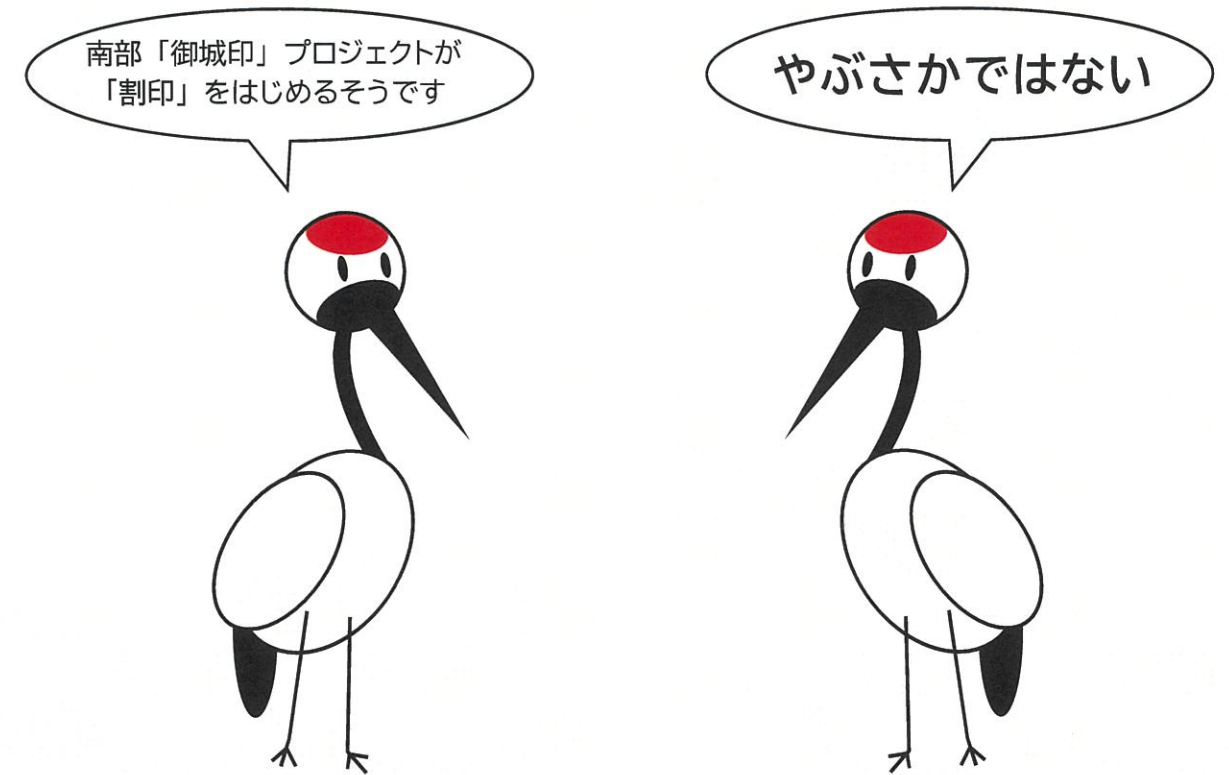
十三湊安藤氏攻略から大浦氏蜂起までの期間の勢力域



令和5年度南部「御城印」プロジェクト

なんぶのワリイン

実施期間：令和5年7月29日～10月31日



「割印（ワリイン）」ってなに？

「割印」とは

それぞれが関連することを示すために、2枚の紙片にまたがせて押す印を押すことを「割印（ワリイン）」といいます。

南部お城めぐりではそれぞれのお城の係りにちなんだ14城館12種類の組み合わせの「割印」をご用意いたしました。「割印」は来場者の皆さんに押印していただきます。縦に押すもよし、横に押すもよし。1枚の御城印に複数の「割印」を押すもよし。

「割印」を通し、より深く南部の歴史をお楽しみください。

「御城印」とは

お城の歴史にゆかりある家紋や題字をあしらった和紙のお札を御城印（ごじょういん）と呼びます。お城の来城記念となるものです。

最新情報

南部お城めぐりフェイスブック <https://www.facebook.com/NanbuGojoinProject>
南部お城めぐりガイド <https://nan-hi.github.io/nanbu-castles-tours/>
事務局（八戸市博物館） 0178-44-8111

「割印」押印の心得 四ヶ条

- 令和5年度「なんぶのワリイン」の実施期間は令和5年7月29日（土）から令和5年10月31日（火）です。割印押印は無料です。
- 割印押印を希望される方は、販売先スタッフに対象の2枚の御城印を提示し、割印押印を希望する旨をお申し出下さい。
- 割印はご来場者様に押印していただきます。割印の組み合わせや押印位置などを確認のうえ押印してください。なお、押印ミスについて返金や返品は出来かねます。
- 割印のインクカラーは販売先ごとに異なります。様々な印象の割印をお楽しみください。

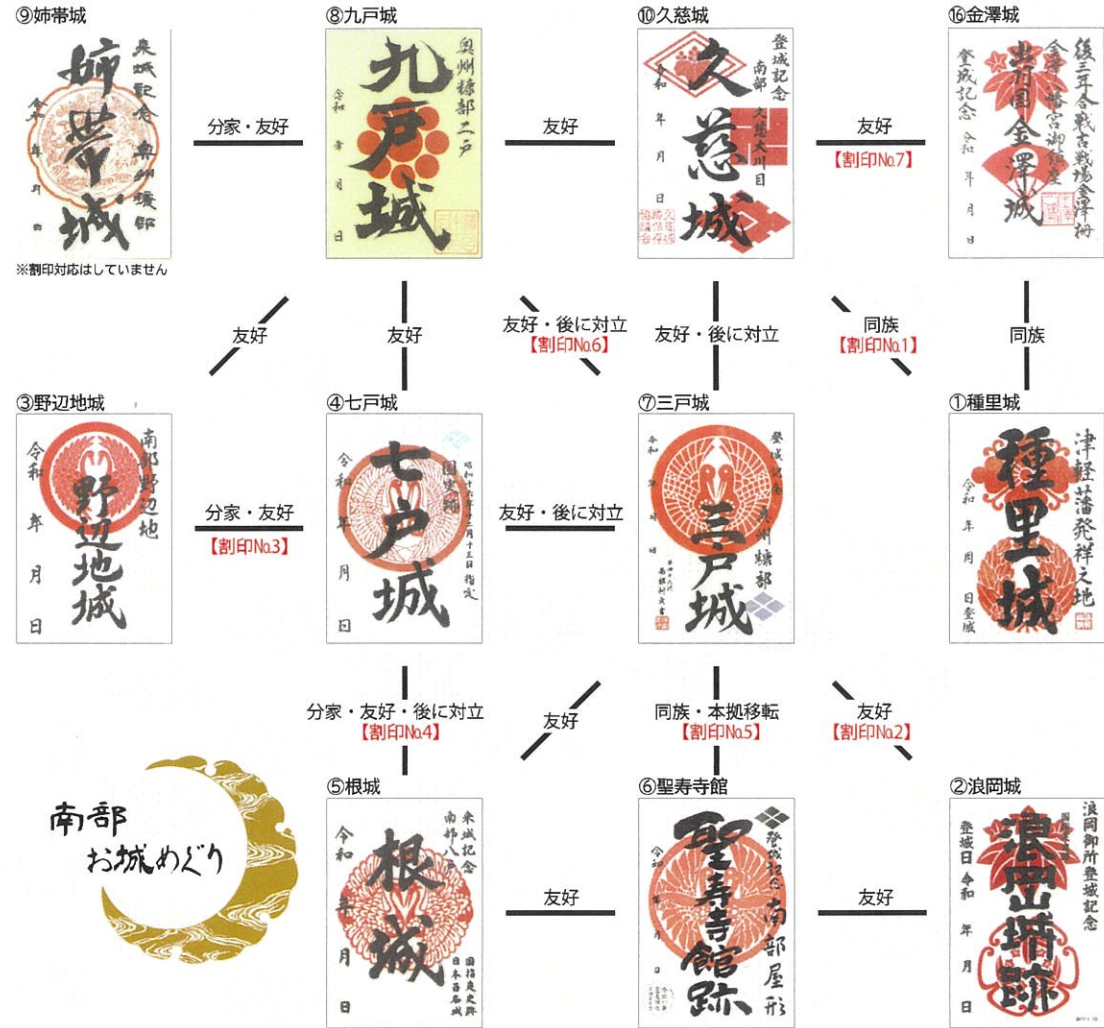
注意

12種類の割印は、今年度だけの限定仕様ではありません。次年度以降も期間限定で、同様の企画を実施します。慌てずゆっくりと、南部の歴史をお楽しみください。



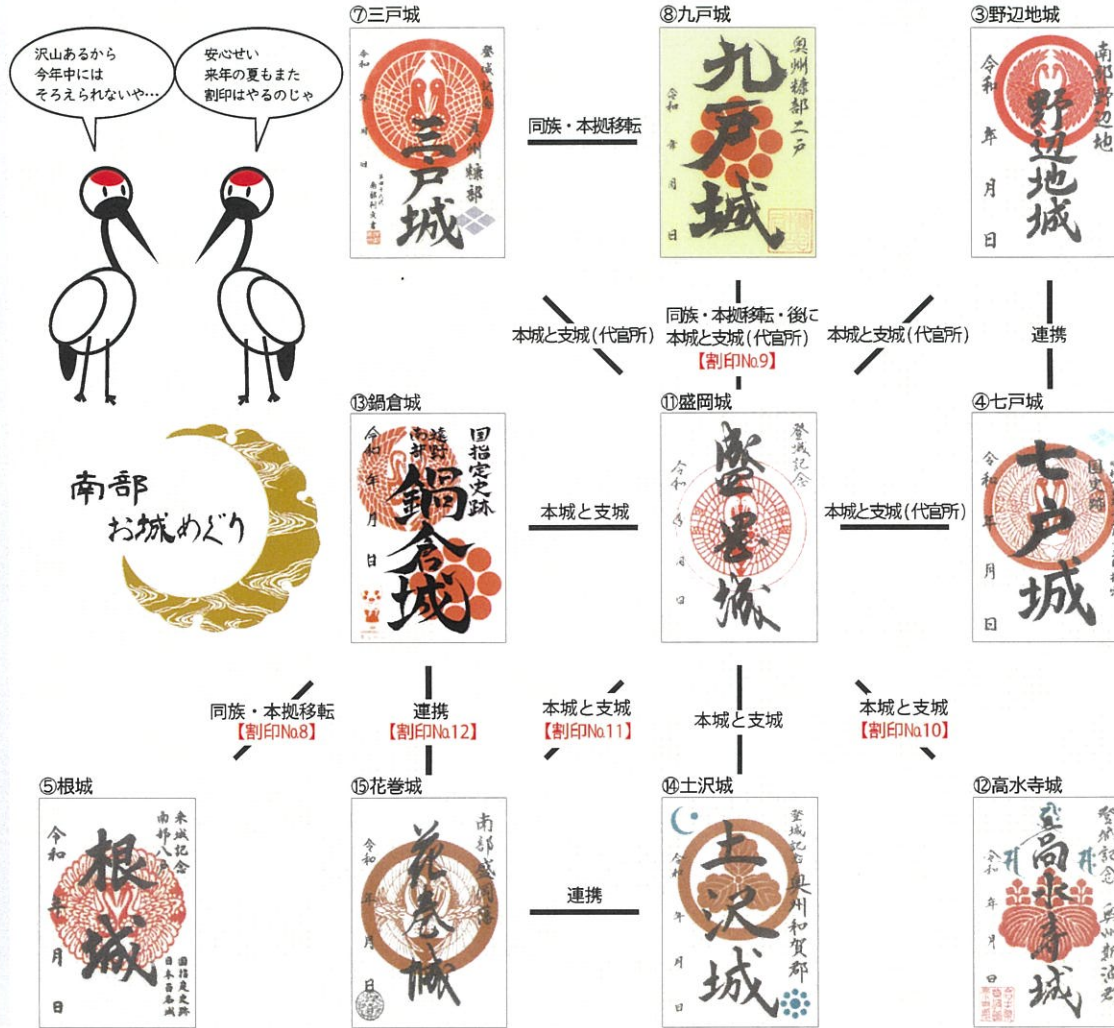
南部氏のお城 相関図【中世編】

糠部に入部した南部氏は、糠部郡中に分散し、それぞれの居城を構えた(④七戸城、⑤根城、⑥聖壽寺館、⑦三戸城)。後に南部氏一族は、分家や家臣(①種里城、③野辺地城、⑬金澤城)、在地の友好的な国衆ら(②浪岡城、⑧九戸城、⑨姉帯城、⑩久慈城)と連携し、広く北奥羽を治めた。しかし、天正18年頃になると三戸南部氏と九戸氏の対立が激化し、結果三戸方(⑦三戸城・⑤根城・豊臣奥羽再仕置軍)と九戸方(⑧九戸城、③野辺地城、④七戸城、⑩久慈城)に分かれ雌雄を決した。これが世にいう九戸一揆である。



南部氏のお城 相関図【近世編】

九戸一揆に勝利し、名実ともに大名となった三戸南部氏は、自らの本拠を⑦三戸城から⑧九戸城(→福岡城)・⑪盛岡城へと移した。中世城館の多くは廃城になったが、いくつかの拠点城館は残され、支城や代官所に転用され、広大な盛岡藩領を運営する拠点となった(③野辺地城、④七戸城、⑦三戸城、⑧九戸城、⑫高水寺城、⑬鍋倉城、⑭土沢城、⑮花巻城)。



「御城印」販売先・「割印」押印先一覧

- ①種里城**
販売先 光信公の館★
青森県西津軽郡鯉ヶ沢町大字種里町大字柳 90(城内)
電話 : 0173-79-2535
開館時間 : 9時~17時 ※9月以降16時30分まで
休館日 : 月~木曜日(ただし祝日は特設) ※11月~翌4月は冬季休館(販売休止)
販売先2 鯉ヶ沢町中央公民館★
青森県西津軽郡鯉ヶ沢町大字本町 209-2(城から約13.5km)
電話 : 0173-72-2859
開館時間 : 9時~16時
休館日 : 土日・祝日 ※11月~翌4月は販売休止
- ②浪岡城**
販売先 青森市中世の館★
青森県青森市浪岡字岡田 43(城館隣接)
電話 : 0172-62-1020
開館時間 : 9時~17時
休館日 : 月曜日(祝日の場合は開館)、祝日の翌日、毎月第3日曜日、年末年始(12月28日~翌1月4日)
- ③野辺地城**
販売先 野辺地町立歴史民俗資料館★
青森県上北郡野辺地町字野辺地 1-3(城館内)
電話 : 0175-64-9494
開館時間 : 9時~16時
休館日 : 月曜日(祝日の場合はその翌日も)、祝日、年末年始(12月29日~翌1月3日)
- ④七戸城**
販売先 七戸町観光交流センター★
青森県上北郡七戸町字荒熊内 207(城から約3km)
電話 : 0176-51-6100
開館時間 : 9時~18時(年中無休)
- ⑤根城**
販売先1 史跡根城の広場本丸受付
青森県八戸市大字根城字根城 47(城内)
電話 : 0178-41-1726
開館時間 : 9時~17時
休館日 : 月曜日(第一月曜及び祝日の場合は閉館)、祝日の翌日(土日の場合は特設)、年末年始(12月27日~1月4日)
販売先2 八戸市博物館★
青森県八戸市大字根城字東横 35-1(城館隣接)
電話 : 0178-44-8111
開館時間・休館日 : 販売先1と同じ
- ⑥聖壽寺館**
販売先 史跡聖壽寺館跡案内所★(城館隣接)
青森県三戸郡南部町大字小向字正壽寺 81-2
電話 : 0179-23-4711
開館時間 : 9時~16時30分
休館日 : 年末年始(12月29日~1月3日)
- ⑦三戸城**
販売先 三戸町立歴史民俗資料館★
青森県三戸郡三戸町大字梅内字城ノ下 34-29(城内)
電話 : 0179-22-2739
開館時間 : 9時~16時
休館日 : 月曜日(祝日の場合は特設)、祝日の翌日(土・日曜の場合は特設) ※12月~翌年3月は冬季休館(販売休止)
- ⑧九戸城**
販売先 二戸市埋蔵文化財センター★
岩手県二戸市福岡字八幡下 11-1(城から約1km)
電話 : 0195-23-8020
開館時間 : 9時~17時
休館日 : 月曜日(祝日の場合は翌日)、祝日の翌日(土・日を除く)、年末年始(12月29日~1月3日)
- ⑨姉帯城**
販売先 御所野縄文博物館
岩手県二戸郡一戸町岩館字御所野 2(城から約6km)
電話 : 0195-32-2652
開館時間 : 9時~17時
休館日 : 毎週月曜日(月曜祝祭日の場合は、その翌日)、祝日の翌日(土日を除く)、年末年始
- ⑩久慈城**
販売先 道の駅くじ「やませ土風館」★
岩手県久慈市中町二丁目5番6(城から約6km)
電話 : 0194-66-9200(←社) 久慈市観光物産協会
開館時間 : 9時~19時
休館日 : 1月1日
- ⑪盛岡城**
販売先 もりおか歴史文化館★
岩手県盛岡市内丸 1-50(城内)
電話 : 019-681-2100
開館時間 : (4月~10月)9時~19時、(11月~3月)9時~18時
休館日 : 毎月第3日曜日(祝・休日の場合は翌日)、年末年始(12月31日・1月1日)
- ⑫高水寺城**
販売先 紫波町情報交流館 オガールプラザ内★
岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前 2-3-3(城から約2.5km)
電話 : 019-672-2918
開館時間 : 10時~21時30分
休館日 : 毎週月曜日(祝日のときは翌日)、館内点検日(月末の平日)、年末年始
- ⑬鍋倉城**
販売先 遠野市立博物館★
岩手県遠野市東館町 3-9(城館隣接)
電話 : 0198-62-2340
開館時間 : 9時~17時
休館日 : 5~10月の月末日、11~翌3月の月曜日・月末日(月末日が祝日・日曜の場合は特設)、年末年始、資料特別整理日(11月24~30日、1月28~31日)
- ⑭土沢城・⑮花巻城**
販売先 花巻市博物館★
岩手県花巻市高松 26-8-1(土沢城から約8km・花巻城から約6km)
電話 : 0198-32-1030
開館時間 : 8時30分~16時30分
休館日 : 年末年始(12月28日~1月1日)
- ⑯金澤城**
販売先 後三年合戦金沢資料館★
秋田県横手市金沢中野字根小屋 102番地4(城から約1km)
電話 : 0182-37-3510
開館時間 : 9時~17時
休館日 : 毎週月曜日(祝日の場合はその翌日)、12月28日~1月3日
★印の販売先は「なんぶのフライン」期間中の閉館日に、割印押印が可能です

- 割印No.1**
①種里城 × ⑩久慈城 『御出立光信公御入部』
延徳3年(1491)、南部光信は単騎を率いて久慈を立出、種里城に入り勢力を拡大した。光信を初代とする大浦氏は後に津軽藩を興す津軽為信を世に出し、光信は「津軽藩始祖」と崇められている。
- 割印No.2**
②浪岡城 × ⑦三戸城 『南部政信浪岡城派遣』
戦国末期、津軽地方一帯は旧来勢力の南部氏と新興勢力の津軽氏によって、その支配権を巡る熾烈な争いが繰り返されていた。当主南部信直は、津軽の重要拠点「浪岡城」へ弟の政信を都代として派遣した。
- 割印No.3**
③野辺地城 × ④七戸城 『南部領北方守護』
中世七戸南部家の本城である七戸城は、支城である野辺地城とともに、南部領内の北の要衝と位置付けられていた。七戸城は周辺地域の統治、野辺地城は西接する津軽領との境界警備を担う重要な存在だった。

- 割印No.4**
④七戸城 × ⑤根城 『七戸応永己亥八戸』
14世紀後半、根城南部隊当主南部政直は家督を甥に譲り、自らは七戸城に隠居した。政直の後裔は七戸南部家として分立、以降根城南部隊と七戸南部家は「ぬかのふなんふ一族」を支える有力氏族として共存共栄した。
- 割印No.5**
⑥聖壽寺館 × ⑦三戸城 『本三戸炎上新三戸』
本三戸(聖壽寺館)を拠点とした三戸南部家は、巧みな戦術により北奥羽で最大勢力を築いた。天文8年更なる領土拡大と本三戸の炎上を契機に、中世糠部最大の山城「三戸城」へ拠点を移し、覇権獲得へと乗り出した。
- 割印No.6**
⑦三戸城 × ⑧九戸城 『九戸一揆』
豊臣秀吉に帰属した南部信直は南部内七郡の領主として認められる。一方で九戸政実を筆頭に在地領主らは独立維持を貫き、両者の対立は激化。天正19年、九戸氏と三戸家の存続をかけた戦いが奥州糠部の地で始まった。

- 割印No.7**
⑩久慈城 × ⑬金澤城 『金澤右京亮南部』
金澤右京亮家光は出羽仙北金澤に所領を有していたが、侍の一揆により討たれ、幼少の嫡男(南部右京亮家信)は家光の家臣により南部の地に届けられ、後に家信は本領であった久慈を知行したと伝えられている。
- 割印No.8**
⑤根城 × ⑬鍋倉城 『八戸弥六郎直義』
根城南部隊(遠野南部家)当主は代々、八戸弥六郎を名乗り、藩の筆頭家老を務めた。直義は1620年分家新田家から養子に入り家督を継ぐ。1627年藩主の命で八戸から遠野に国替し、藩境警備にあたりながら遠野の礎を築く。
- 割印No.9**
⑧九戸城 × ⑪盛岡城 『福岡城』
天正19年(1591)に起こった奥羽再仕置の最後の戦場となった九戸城。落城後、九戸政実を降した南部信直が入城し「福岡城」と改称した。寛永10年(1633)に信直の孫の重直が、盛岡城に入るまで三戸南部家の拠点となった。

- 割印No.10**
⑪盛岡城 × ⑫高水寺城 『郡山城』
天正16年(1588)、高水寺城主波登直は南部信直に敗北。高水寺城は郡山城と改称された。盛岡城築城に際しては南部利直の居城となったが寛文7年(1667)破却され、古材は盛岡城本丸に用いられたともいわれる。
- 割印No.11**
⑪盛岡城 × ⑮花巻城 『盛岡城北上川花巻城』
盛岡、花巻にとって北上川の存続は城下の防衛的・経済的にも重要な河川であった。一方では脅威ともなり、江戸時代に北上川の氾濫による洪水で両城下町ともに甚大な被害を受けており、改修工事を行っている。
- 割印No.12**
⑬鍋倉城 × ⑮花巻城 『盛岡藩領南端守護』
鍋倉城と花巻城は、広大な盛岡藩領において、最も警戒すべき伊達仙台山藩との境で、最前線基地ともいえる重要な役割を担っていた。この重要拠点に盛岡藩一族の根城南部隊直義と藩主息子の政直を配置した。